学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

西有家中 No１０

令和４年　９月２８日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

市中総体新人大会本格化！

２学期がスタートし、１か月が経とうとしています。生徒たちは、授業に、部活動に、落ち着いて取り組んでいます。

さて、今週末からいよいよ１０月、令和４年度の後期に入ります。１０月になると、市中総体駅伝競走が６日に開催されます。８月から毎日、練習に取り組んできました。全力を出し切って欲しいと思います。また、他の部活動においては市中総体新人大会が本格化します。新チームになって、他校との合同チームで出場する競技もあります。悔いの残らないように力を発揮してほしいと思います。

おめでとう！！

去る９月２４日、２５日の両日、市中総体新人大会ソフトテニス競技が男女共、開催されました。男子は個人戦で優勝と第３位と２つのペアが県大会出場権を獲得しました。団体戦では、接線の中、惜しくも準優勝でした。女子は、個人戦でベスト８まで勝ち進み、県大会出場をかけた試合で惜敗しました。団体戦でも１勝１敗と健闘しましたが、惜しくも決勝戦には進むことが出来ませんでした。しかし、男女共に生徒たちは暑い中よく頑張りました。今後につながる試合でした。

＜県大会出場権を獲得した城谷・永橋ペアと城谷・松野ペア＞

こんな子いるかな？
～発達障がいの子どもたち（その１）～

特に知的な遅れは感じられないのに、教師の指示に従えなかったり、落ち着きがなく、すぐに席を離れてしまったりする子どもがいます。また、集団生活を嫌がり、他の子どもとはどこか違う、変わっていると感じる子どもがいます。これらの子どもの中には、発達障がいと言われる子どもたちがいます。

文部科学省の調査によると、通常の学級に在籍する児童生徒で、発達障がいの可能性があり、学習面、生活面で著しい困難を示す児童生徒が７％の割合で存在している。という結果が出ました。そこで、「障がい」をどう考えるかということを話します。

私は、老眼と乱視のため、近くがよく見えません。新聞等を見るとき、文字が二重に見え、ぼやけて見えます。そのため、老眼鏡を使っています。つまり、メガネがないと近くの文字等をハッキリ見ることができません。近くを見るということに関しては「障がい」があります。しかしながら、メガネを使うと障害がなくなります。

同じように膝が悪くて、歩道橋を渡ることが困難な方がいらっしゃいます。これも障害があると言えます。しかしながら、横断歩道があれば障がいにならないと言うこともできるでしょう。

つまり、「障がい」というのは、社会環境との関係で表れたり無くなったりするということなのです。車いすを使わなければ移動が困難な人も、車いすという道具を使い、スロープ等が整備された通路を通ることができれば、移動に障がいはないと言えます。

だから、その人が「**障がいを持っている**」のではなく、社会生活を営む上で「**障がいがある**」と考えるべきだと私は思います。学校も同様で、学校生活を営む上で、障がい（ハードル）がある子どもたちがいます。これらの子どもたちに適切な指導や必要な支援をすることが学校の大きな課題です。

（裏面に続く）

次に発達障がいの子どもたちの特徴について説明します。発達障がいとは、ADHD（注意欠陥／多動性障害）LD（学習障害）、自閉症スペクトラム（高機能自閉症・アスペルガー症候群）を言います。

まず、発達障がいの中で、ADHD について説明します。トーマス・エジソンは、誰でもご存じだと思いますが、彼の言動を調べた、のちの研究者が ADHD の可能性があると述べています。

小学生のころ、エジソンは、学校の簡単な課題に集中することができず、いつも先生に叱られていたそうです。母親は、そんなエジソンを「誰にだって、苦手なことはあるわ」と広い心で受けとめ、見守り続けました。エジソンの教育は主に母親が行っていたのです。ＡＤＨＤは、原因がはっきりしていません。日本語訳では、注意欠陥／多動性障害又は症候群とか言います。名称からも分かるように、「不注意」「多動性」「衝動性」の三つの特徴があります。ただし、すべてのＡＤＨＤの子に、この三つの特徴がすべて表れるというわけではありません。「不注意」とは、集中すべきところに集中ができず、ちらちらと注意が散ってしまうこと。

「多動性」とは、落ち着きがなく、じっとしておれずに、やたらと動いてしまうこと。

「衝動性」とは、自分の感情をコントロールできず（おさえきれず）即座に反応して行動してしまうことです。　具体的には、

- 少しの刺激にも、すぐ反応してしまう
- 集中する力が弱い
- ものごとをパッと見て判断してしまう
- 結果を考えずにすぐ行動してしまう
- 興味ある物にはすぐに触ったり、手に取ったりせずにはいられない

などがあります。こんな子が周囲にいませんか。決してこの行動に悪気はありません。この特性を理解して、接してほしいですね。

なお「しょうがい」の表記については、用語として用いるときは、「障害」と表記し、他は「障がい」としています。

１０月の主な行事予定

３日（月）ＰＴＡあいさつ運動
６日（木）市中総体駅伝競争（諫早市）
１１日（火）ＰＴＡ本部役員会（19:30～）
１３日（木）１４日（金）３年生実力テスト
２７日（木）総合的な学習発表会
　　合唱コンクール

ブレークコーナ

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

『２つの報告書』

ある靴工場の職員二人が裸足で生活するアフリカに行き、靴を売るための市場調査を行いました。周辺の国も調査し、各自、報告書を作り、本社に送りました。Ａさんは「アフリカには靴を輸出できません。靴を履いていないから、靴が売れる可能性は０です。」Ｂさんは、「アフリカは輸出の可能性１００％です。黄金市場です。まだ誰も靴を履いていないから、靴が売れる可能性はあります。」全く逆の報告をした二人。頭に希望のイメージを作れば、脳は肯定的な考えを生みだし、絶望のイメージを作れば、否定的な考えを生みだします。

同じ状況でも、見方を変えると考え方も変わります。常に可能性を信じたいものです。生徒の皆さんは常にプラス思考で、色々な取組において「必ずできる」という強い意志を持ってチャレンジして欲しいです。そして、色んな視点からものを考え、可能性を拡げてほしいです。

。